

泌尿器シリーズ①

今日、高齢化社会を迎えるとともに、多くの人々が元気であるために、病気の早期発見・早期治療が求められています。

その中で泌尿器に関するものは、「年だから」「恥ずかしいから」「痛みがないから」などと、受診をためらわせていた症状(例えば「おしっこが出にくい」などの排尿障害や尿失禁・血尿など)が有るのではないのでしょうか。それらの症状も当然ながら治療の対象であり、症状を改善することは「生活の質」の向上にもつながります。

そのため、今回は、泌尿器に焦点を当て、代表的な症状について紹介していきたいと思えます。

泌尿器とは、人間の臓器のうち、血液中の老廃物などを尿にして体外に排出することに関わるものの総称です。

代表的なものとして、腎臓・尿管・膀胱・尿道などの尿路系、副腎などの内分泌系、前立腺などの男性生殖系などがあげられます。

今回は、高知大学医学部の井上教授による「血尿」について掲載します。

◆血尿について

血尿とは、尿に赤血球が混入した状態であり、血尿そのものは病気ではなく、病気のサインです。肉眼ではつきりと分かる赤い血尿

もあれば、赤くない血尿もあります。また、痛くない血尿もあります。尿を詳しく調べることで、腎臓からの血尿か、泌尿器科領域の病気による血尿なのかなどの目安をつけることができます。赤い血尿であっても、その出血量は止血が必要となることは珍しく、むしろ原因を検索することが重要です。

血尿の原因の約75%は、尿道炎や膀胱炎、さらには前立腺肥大症などの良性疾患です。しかし、約10%弱ではありますが、膀胱がんがみつかることもあります。やはり血尿は要注意といえます。

特に、喫煙をされる男性に血尿がみられた場合には、膀胱がんを疑い、尿検査とエコーなどの画像検査を受けることをお勧めします。

膀胱がんの大部分は、がんの根が浅い表在がんであり、内視鏡(カメラ)で切除することができます。一方、がんの根が深い浸潤がんは、膀胱を全て摘除することが必要となり、最近では腹腔鏡(カメラ)でこの手術が行われます。

以上のように、血尿が出たにも関わらず、痛くないから大丈夫、自然に止まったから大丈夫、昔から出ていたから大丈夫などと、何も検査を受けずに自己判断することはとても危険です。血尿や尿潜血に関する精密検査の大部分は、尿の検査や超音波検査などの痛くない検査ですので、安心して泌尿器科を受診してください。

高知大学医学部泌尿器科学講座
教授 井上 啓史

○お問い合わせ

本庁健康福祉課保健衛生係
43-2836(直通)

佐賀支所地域住民課保健センター
55-7373(直通)



地域子育て支援センター通信

じりじりとした暑さが身体に迫ってくるような毎日です。センターでは、プールや水遊びの準備をしてお待ちしています。

着替えや体拭きを持って参加してください。

8月の予定

★佐賀おでかけ広場

午前9時30分～11時30分
場所 佐賀保育所一時保育室
毎週火曜日

★いっしょに遊ぼう

午前10時～11時30分
場所 地域子育て支援センター
毎週木曜日
シャボン玉やプール遊びを楽しみます。

★第5回『子育て講座』

18日(金)午前10時～11時30分
場所 地域子育て支援センター
内容 乳幼児の健康おやつ
講師 黒潮町栄養士 濱田 佐恵さん

○お問い合わせ

地域子育て支援センター

(大方中央保育所内)

43-0512(直通)

